〔巻頭言〕

ながれの編集について

ながれ編集委員長 宮 寄 武[†]

ながれの編集委員長をお引き受けすることとなり、早くも2年目となりました。短い期間ではありますが、日本流体力学会と日本数値流体力学会との融合や英文誌 FDR への科研費の打ち切りなど、「ながれ」の周辺環境が大きく変化しています。紙面による情報伝達からネットワークを介する情報伝達へと社会全体のシステムが変革しつつあるなかで、より魅力ある会誌のありかたを本質的に問い直す機会が迫っているようです。10月以降、数値流体力学会側の新委員2名にも編集委員会に加わっていただき、この課題を慎重に検討していきたいと思っております。

ご存知のように、20巻からはオペレーターグループ梅村に印刷業務とホームページの管理を一括して依頼し、効率的な電子化を図りました。2年目にはいり、オペレーターグループ梅村も作業に習熟し、偶数月25日にはホームページ上に最新号の内容を掲示しています。また、ネットワーク社会の影の側面であるセキュリティ上のトラブルにも速やかに対応し、円滑なホームページ運営がなされています。ホームページを訪れる方の数は予想を遙かに越え、2000年11月の開設からの総数は100万件以上に達しています。「ながれ」の記事につきましても、「総合講座ながれ」や「特集」などの解説記事へのアクセスは単体で5万件を越えるものや、原著論文にも5000件を越えるものがごございます。多くは流体力学を専門とされない方からのアクセスかもしれませんが、広い意味での「流体力学のファン」をどんどん増やしていければと思います。また、近い将来における電子投稿システムの構築に向けて、投稿や閲

読作業の電子化の便宜のためにMS-WordのテンプレートとLaTeXのスタイルファイルを用意いたしました。

さて、これまでの21巻の特集は、1号「CFDの新展開」、2号「生物流体」、3号「流れと粒子」、4号「乗り物の流体力学」でした。今後ですが、21巻5号では「風洞実験：流れを作る」の特集を、21巻6号では年会からの話題を集めた特集を組みました。さらに22巻1号を流体力学会と数値流体力学会との「融合特集号」といたしますので、ご期待下さい。

編集委員会では感性豊かな表紙デザイン・巻頭写真を含め、高品質な解説記事の依頼を心がけておりますが、昨年も申し上げましたように、原著論文への投稿数が少ないことが気になります。例えば、数値流体力学シンポジウムのCD-ROM版の記事などを「ながれ」に原著論文としてご投稿いただければ幸いです。迅速な編集作業に努めておりますので、研究速報や談話室なども併せまして、活発なご投稿をお願い申し上げます。気象・海洋分野を中心として定着しました「ながれマルチメディア」にも、より広い研究分野の方々からのご投稿をお待ちしております。是非とも、日本流体力学会の公式ホームページ上で動画を含む研究成果を紹介する機会をご利用下さい。

末筆となりますが、会誌に関するご要望やご意見がございましたら、電子メール editors@nagare.or.jp までお寄せ下さい。会員皆様の声を反映して、より充実した会誌を作り上げていきたいと思っております。

[†] E-mail: miyazaki@miyazaki.mce.uec.ac.jp